

本日は先生曰く休日らしく出発も9時半で予定も余裕のあるものでした。この1週間を振り返ると、タイについて様々なものに興味を持ち、タイの風土や気候、食事などを体験してきました。1週間経って少し余裕が出てきましたが、一日の予定をこなす前に疲れがでることが多くなっていたのでリフレッシュするにはとてもよい一日だったと思います。

9時半にホテルを出発してバンコクへと移動し、初日と2日目お世話になったスーザン・ドゥシットホテルへ帰ってきました。荷物を置いてすぐに昼食へ向かい昼過ぎにはバンコクの動物園に着きました。最初にマヒドン大学のノイナ先生と合流しました。その後ノイナ先生から園長さんを紹介していただき、動物園を案内していただきました。まず、アシカショーを見学しました。日本のアシカショーは私の中では司会のマイクと多少のBGMというイメージでしたが、アシカのトレーナーがおどけた動きし、効果音が多く入れられ、よりコメディータッチな演出がされていました。しかし、しつけられたアシカを見ていると彼らは本当に幸福を感じているのか疑問に思いました。ショーを見ている間、人間にしつけられて芸を覚えて餌をもらいながら生きる生き方と、自然の中でアシカらしく生きる生き方のどちらが彼らにとって幸せなのか考えていました。

その後、世界でここしか見られないアルビノのヤギを見ました。動物園の園長さんが英語で解説してくださったこともあり、皆興味深く見ていました。その後もアリゲーターやクロコダイル、様々な野鳥を見ました。他にも東南アジアに生息し色の異なるサルや、赤い帽子をかぶったような鶴の一種の説明も受けました。どれも珍しい動物ばかりで、野生動物に対して関心が一層高まりました。園内はかつて王宮の管轄だったこともあり、とても広くきれいな外観が広がっていました。

様々な動物を見ていく中で、動物の幸せについて再び考えました。動物園の動物たちは毎日人に



ドゥシット動物園



アシカショー



園長さんとの園内一周学習

見られて本来やらないことをやることでストレスがたまることが考えられます。代わりに毎日安全な場所で餌をもらいながら生活できます。自然に生きるものたちはありのままに生きられますが毎日死と隣り合わせです。餌もいつ食べられるか分かりません。結局どちらがよいのか決まりませんでした。自分たちのことを大切に思ってまっすぐに接してくれる人間と共に何かを共有しながら生きる幸せ。一方、何も求められず縛られることなく思いのままに自然の中で自由に生きる幸せ。動物たちは選ぶことができません。しかしどちらの幸せにも人間が携わり環境を整えること、支えることができるのではないかなと思いました。そう思うことが出来たのでとても良い一日になりました。